

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 } 殿
農業資材販売等関係者

福岡県病虫害防除所長

平成19年度病虫害発生予報第4号(7月)について

このことについて、病虫害発生予報第4号を発表したので送付します。

果樹カメムシ類の果樹園への飛来に注意しましょう!

今年のチャバネアオカメムシの越冬量は平年並でしたが、ほとんどの調査地点で確認されました。これまでのところ、果樹園への多飛来は見られていませんが、本年は主な餌植物のヒノキの球果の結実量が少ないため、園への飛来が早くなることが予想されます。園内の発生状況の把握に努め、飛来を認めたら直ちに防除を行いましょ。特に、常発地域やスギ、ヒノキ林に近接する園では注意が必要です。



ヒノキ球果に寄生するチャバネアオカメムシ



なしの被害果実

< 予想される向こう1か月の天候 >

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候は以下のとおりです。

期間の前半は低気圧や前線の影響で曇りや雨の日が多く、後半は高気圧に覆われて晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は平年並でしょう。降水量は平年並、日照時間は平年より少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目及び3～4週目も平年並でしょう。

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	40	30	30

(福岡管区气象台 19年6月29日発表抜粋)

予報第4号

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

作物名	病害虫名	発生時期 (予想)	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
		平年比	平年比	平年比	前年比
水稲	いもち病(葉いもち)	-	少	少	並
	ヒメトビウンカ	-	やや多	やや多	やや多
	縞葉枯病	並	-	やや多	やや多
	セジロウンカ	-	並	やや多	並
	トビイロウンカ	-	やや多	やや多	並
	コブノメイガ	-	並	並	並
かんきつ	黒点病	-	並	並	やや少
	ミカンハダニ	-	並	並	並
なし	ナシヒメシンクイ	-	並	並	やや少
ぶどう	べと病	-	並	並	並
かき	炭そ病	-	並	やや多	やや多
	フジコナカイガラムシ	-	やや多	やや多	やや多
いちじく	アザミウマ類	-	多	多	多
果樹共通	カメムシ類(本所)	-	やや多	-	やや多
	(筑後支所)	-	少	-	少
	(行橋支所)	-	並	-	並
茶	炭そ病	-	並	並	やや多
	輪斑病	-	少	並	やや多
	カンザワハダニ	-	多	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	-	多	多	並
	チャノホソガ	やや遅	多	やや多	多
	チャノキイロアザミウマ	-	多	やや多	多
	チャノキイロアザミウマ	-	多	やや多	やや多
ネギ	シロイチモジヨトウ	-	やや多	やや多	やや多

* 果樹共通 カメムシ類の発生量(現況)は前年比

* 本所管内(福岡農林、飯塚農林、朝倉農林)、筑後支所管内(筑後農林)、行橋支所管内(八幡農林、行橋農林)

作物別発生予報

注：予報の根拠の末尾の（ ）書きは、（+）は発生を助長する要因、（-）は発生を抑制する要因、（±）は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示す。

【普通作物 - 水稻】

1 いもち病（葉いもち）

（1）予報の内容

発生量：平年より少、前年並

（2）予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果（-）

発病株率 0%（平年 0.7%、前年 0%）

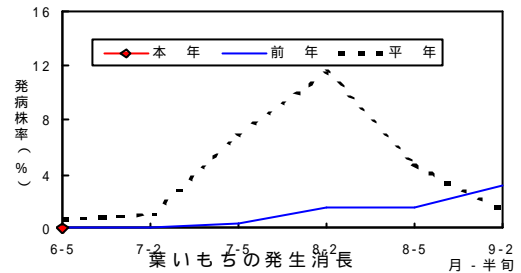
イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並（±）。

（3）防除上の注意

ア 補植用の置き苗は葉いもちの発生源になりやすいので、早めに処分する。

イ 発生に注意し、初期防除に努める。

ウ 防除薬剤は「平成19年度普通作物病害虫・雑草防除の手引き」を参照する（以下の病害虫についても同様）。



2 ヒメトビウンカ

（1）予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

（2）予報の根拠

6月5半旬調査結果（+）

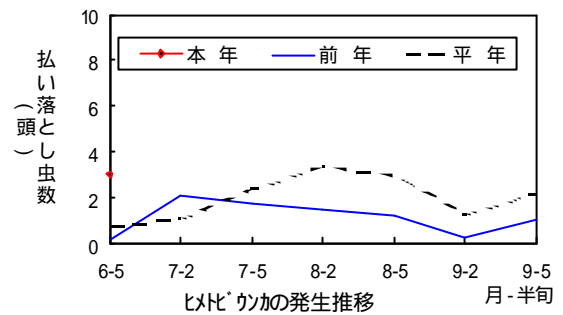
10株当たり成幼虫数3.0頭（移植期別調査結果

5月移植8.7頭、6月移植0頭）（平年 0.7頭、前年 0.1頭）

（3）防除上の注意

ア 越冬世代のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率が高いため、箱施薬剤を施用していないほ場でヒメトビウンカの密度が高い場合は本田防除を実施する。

イ 5月移植地域でヒメトビウンカの密度が高い傾向にある。



3 縞葉枯病

（1）予報の内容

発生時期：平年・前年並

発生量：平年・前年よりやや多

（2）予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果（±）

発病株率 0%（平年 0%、前年 0%）

イ ヒメトビウンカ越冬世代のイネ縞葉枯病ウイルス保毒虫率は4.2%（平年2.4%、前年5.3%）であった（平成19年度病害虫発生予報第2号、技術情報参照）（+）。

ウ 6月5半旬調査の結果、5月移植地域において本田のヒメトビウンカ密度が高かった（ヒメトビウンカの項参照）（+）。

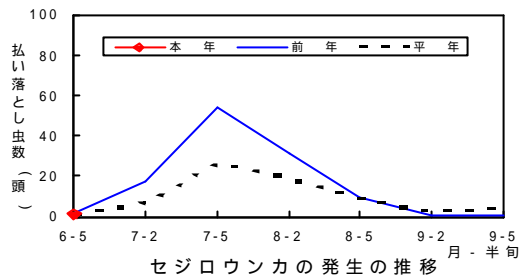
（3）防除上の注意

ア 縞葉枯病の発病株を認めたら抜き取る。

イ 縞葉枯病の常発地域において、ヒメトビウンカの発生が多い場合は防除を実施する。

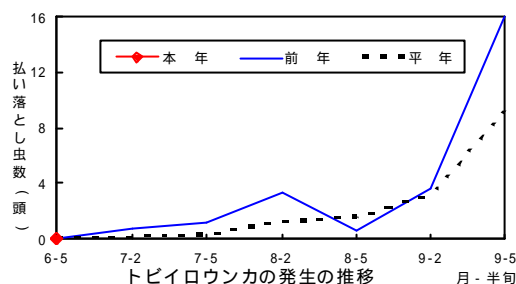
4 セジロウンカ

- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多、前年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月4半旬以降断続的に飛来を確認した(+)。
 - イ 6月5半旬調査結果(±)
10株当たり成幼虫数 1.2頭(平年0.7頭、前年 1.5頭)
 - ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並(±)。
- (3) 防除上の注意
 - ア 梅雨期間中は飛来があると考えられる。病害虫防除所のホームページに掲載する飛来状況を参照する。
 - イ 要防除水準(飛来成虫数6頭/株)を超える場合は防除を実施する。



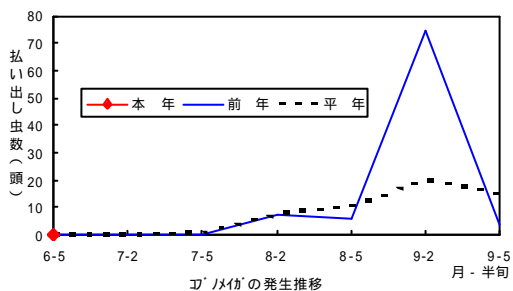
5 トビイロウンカ

- (1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多、前年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月22日に初飛来を確認した(平成19年度速報第2号参照)(+)。
 - イ 6月5半旬調査結果(+)
10株当たり成幼虫数 0.01頭(平年 0.004頭、前年 0頭)。矢部村及び星野村での50株払い落とし調査で、各々成虫1頭を確認し、本田での確認は平年より早い。
 - ウ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並(±)。
- (3) 防除上の注意
 - ア 病害虫防除所のホームページに掲載する飛来状況を参照し、今後の飛来状況に十分注意する。
 - イ ほ場内では集中分布をするので、ほ場全体を見て発生状況を的確に把握する。
 - ウ 箱施薬剤が施用されていないほ場では今後ほ場内の発生状況を的確に把握する。



6 コブノメイガ

- (1) 予報の内容
発生量：平年・前年並
- (2) 予報の根拠
 - ア 6月5半旬調査結果(±)
30㎡当たり払い出し成虫数 0頭(平年 0.03頭、前年 0.3頭)
 - イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並(±)。
- (3) 防除上の注意
病害虫防除所のホームページに掲載する飛来状況を参照する。



【普通作・その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
	平年比	平年比	前年比
普通期水稻 ツマグロヨコバイ 萎縮病	並 並	並 並	並 並

【果樹】

1 かんきつ黒点病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(±)

発病果率 0.1% (平年 0.2%、前年 0.2%)

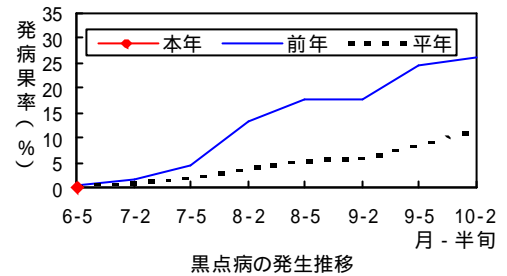
発生ほ場率 11.8% (平年 8.9%、前年 13.3%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 枯れ枝は感染源となるので、発生が多い園では枯れ枝を除去する。

イ 降雨が続くと多発するので、積算降水量250mmを目安に降雨の間をぬって薬剤散布を行う。



2 かんきつのミカンハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(±)

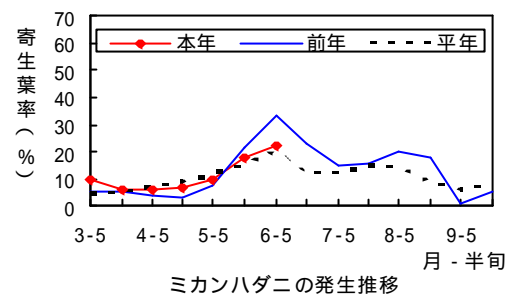
寄生葉率 22.1% (平年 20.4%、前年 33.8%)

発生ほ場率 58.8% (平年 64.0%、前年 80.0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

薬剤防除は、薬液が葉裏に十分かかるよう丁寧に散布する。



3 なしのナシヒメシクイ

(1) 予報の内容

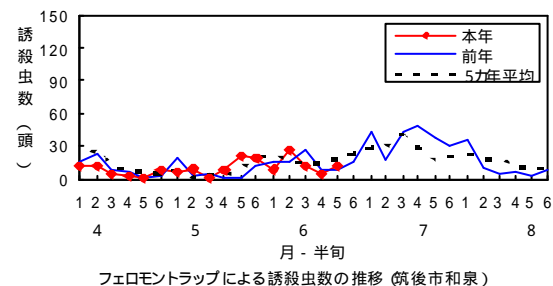
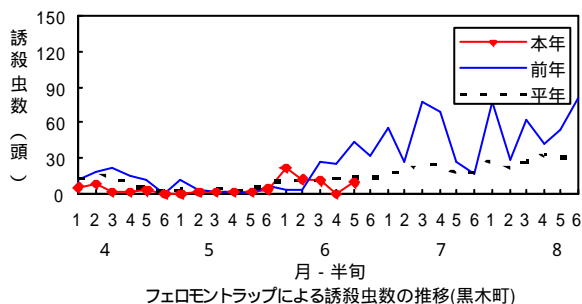
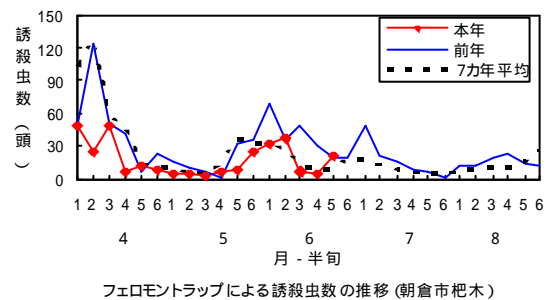
発生量：平年並、前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 第1世代成虫発生時期から6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数(±) (県内3カ所の平均)

110頭 (平年 131頭、前年 158頭)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は平坦地域で6月下旬から7月上旬、山間地域で7月上旬頃と予想されるので、発蛾最盛期直後を目安に防除を行う。なお、発蛾最盛期を過ぎても成虫が多く見られる場合は、更に7～10日後に追加防除を行う。
- イ 幼虫は主に果頂部から果実に食入加害するので、防除に当たっては、果実に薬液が十分かかるように散布する。
- ウ 被害果は処分し発生源を除去する。

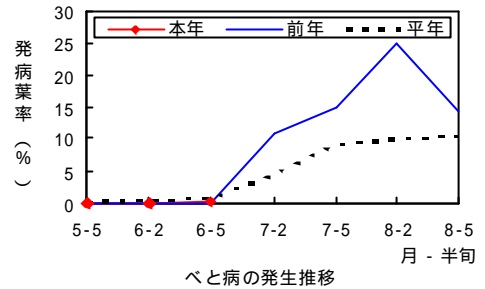
4 ぶどうべと病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

- ア 6月5日半旬調査結果(±)
発病葉率 0.2% (平年 0.7%、前年 0%)
発生ほ場率 33.3% (平年 23.2%、前年 0%)
- イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 発病後は防除効果が低いので予防散布を徹底する。
- イ 感染源となる罹病葉は除去する。
- ウ ボルドー液の散布は、降雨直後の雨滴や散布直後に降雨があると薬害が発生するので注意する。

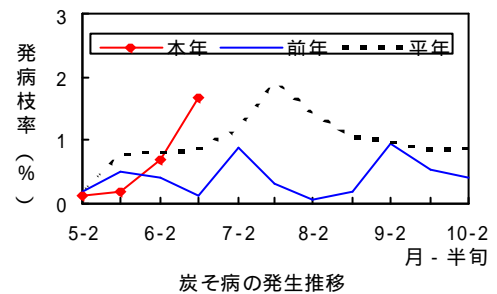
5 かき炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

- ア 6月5日半旬調査結果(+)
発病枝率 1.7% (平年 0.9%、前年 0.1%)
発生ほ場率 31.3% (平年 27.5%、前年 5.9%)
発病果率 0% (平年 0.2%、前年 0%)
発生ほ場率 0% (平年 10.9%、前年 0%)
- イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 罹病枝及び罹病果は、感染源になるので除去する。
- イ 降雨により感染が拡大するので、発病枝の多い園では薬剤防除を徹底する。
- ウ 樹冠内部の徒長枝に発病しやすいので、不用の枝を除去する。

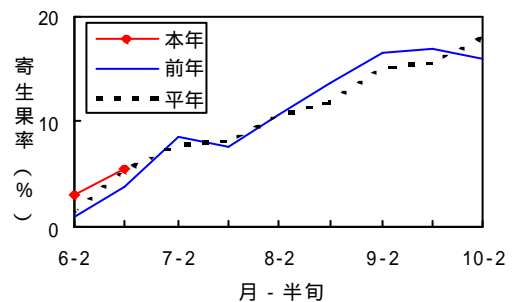
6 かきのフジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

- ア 6月5日半旬調査結果(+)
寄生果率 5.4% (平年 5.5%、前年 3.8%)
発生ほ場率 81.3% (平年 58.7%、前年 64.7%)
- イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

- ア 薬剤防除は、ヘタの下や葉と重なった果実の表面などに薬剤がかかるよう丁寧に散布する。
- イ 6月下旬の防除未実施の園は、早急に防除を実施する。

7 いちじくのアザミウマ類

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年より多

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬から5半旬までの誘引剤の誘殺虫数

(+)

(調査地点：行橋市西泉)

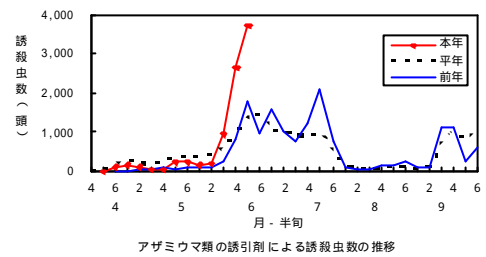
7,676頭(平年 3,833頭、前年 3,053頭)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 6～8月に開花する雑草が発生源となるので、園地周辺の畦畔等の草刈りを行う。

イ 下位節で2.5～3cm大の幼果の開口部を逐次テーピングし、侵入を防止する。



アザミウマ類の誘引剤による誘殺虫数の推移

8 果樹共通のカメムシ類

(1) 予報の内容

発生量：本所管内(福岡・飯塚・朝倉農林管内)前年よりやや多

筑後支所管内(筑後農林管内) 前年より少

行橋支所管内(八幡・行橋農林管内) 前年並

(2) 予報の根拠

ア 1㎡当たりの越冬量は本所管内で平均1.5頭(前年 1.8頭)、筑後支所管内で平均0.4頭(前年 2.6頭)、行橋支所管内で平均0.8頭(前年 0.3頭)と地域で異なる。(越冬量の詳細は、平成19年2月20日付け「速報第7号」参照)

イ 4月1半旬から6月5半旬までの予察灯の誘殺虫数は次のとおりである。

(調査地点：本所管内筑紫野市)(-)

チャバネアオカメムシ 743頭(前年 1,074頭)

ツヤアオカメムシ 553頭(前年 560頭)

(調査地点：筑後支所管内八女郡黒木町)(-)

チャバネアオカメムシ 243頭(前年 1,558頭)

ツヤアオカメムシ 43頭(前年 95頭)

ウ 4月1半旬から6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである。

(調査地点：筑紫野市吉木)(+)

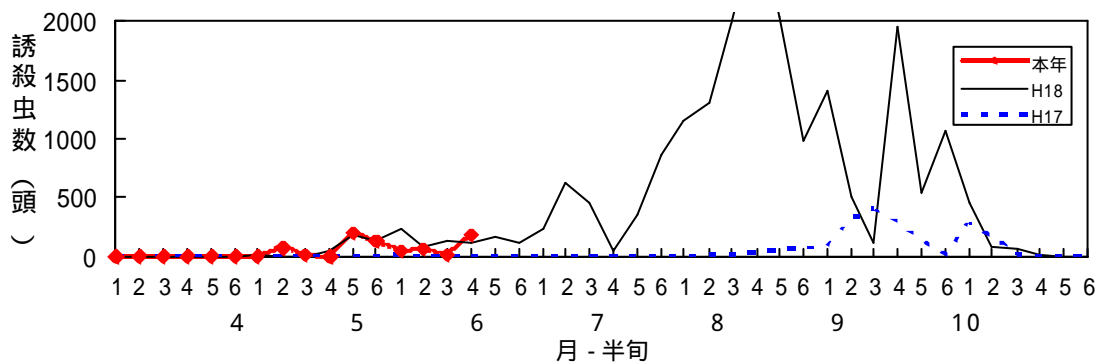
チャバネアオカメムシ 9,481頭(前年 2,661頭)

ツヤアオカメムシ 498頭(前年 181頭)

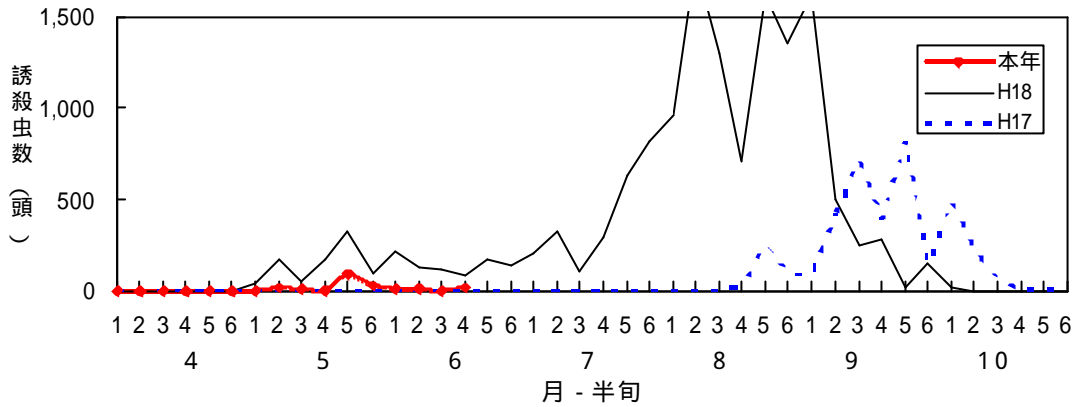
エ 6月5半旬のナシ調査結果(-)

被害果率 0%(前年 0.3%、前々年 0%)

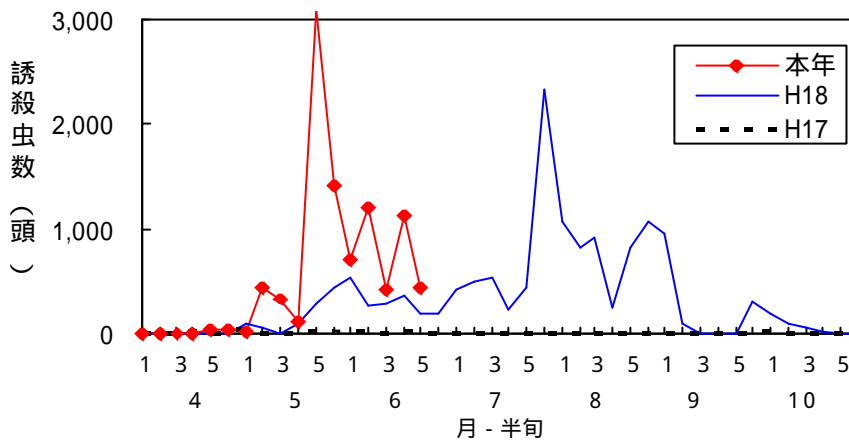
オ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



チャバネアオカメムシの予察灯による誘殺虫数の推移(筑紫野市)



チャバネアオカメムシの予察灯における誘殺虫数の推移 (黒木町)



集合フェロモンにおけるチャバネアオカメムシの誘殺虫数の推移 (筑紫野市)

(3) 防除上の注意

- ア 本年は主な餌植物のヒノキの球果の結実量が少ないため、園への飛来が早くなることが予想される。今後、ナシ、カキ、ブドウなどで飛来が増加すると予想されるので園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。
- イ 特に、常発地域やスギ、ヒノキ林に近接する園では注意が必要である。
- ウ 防除薬剤は作物によって使用できる薬剤が異なるので注意する。

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (予想)	
	平年比	平年比	前年比
ナシ ハダニ類	並	並	やや少
カキ うどんこ病 ハマキムシ類	少並	少並	並 やや少

【茶】

1 炭そ病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(±)

発病葉数 0.6葉(平年 0.4葉、前年 0葉)

発生ほ場率13.6%(前年 0%)

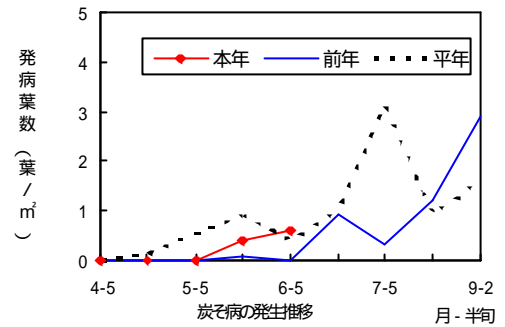
イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 摘採残葉での発生に注意し、萌芽から1葉期までに防除を行う。特に最終摘採後の新芽の防除は、翌年の一番茶の品質・収量に大きく影響するため、防除を徹底する。

イ 雨滴により孢子が飛散伝搬するので、降雨前の防除が効果が高い。

ウ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



2 輪斑病

(1) 予報の内容

発生量：平年並、前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(±)

発病葉数 0葉(平年 0.02葉、前年 0葉)

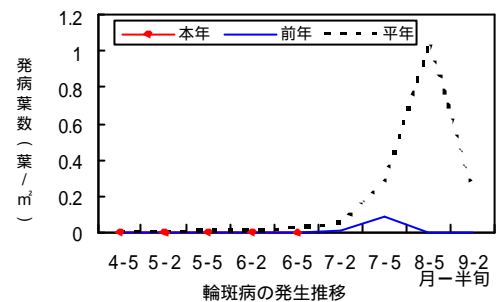
発生ほ場率 0%(前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 葉や茎の傷口から病原菌が侵入感染するため、二・三番茶摘採又は刈落とし当日か翌日に防除を行う。

イ 輪斑病の発生園では、新梢枯死症も発生しやすいので注意する。



3 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(+)

寄生葉率 10.2%(平年 6.4%、前年 0.9%)

50葉当たり虫数18.8頭(平年22.6頭、前年 0.7頭)

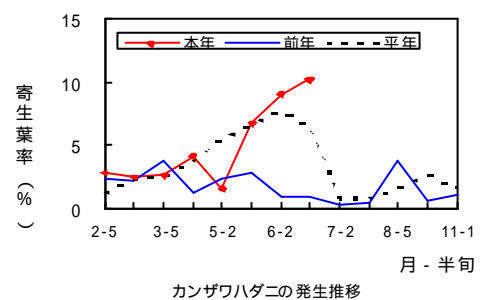
発生ほ場率 59.1%(前年 26.1%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア 発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上である場合は防除を行う。

イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。



4 チャノコカクモンハマキ

(1) 予報の内容

発生量 : 平年より多、前年並

(2) 予報の根拠

ア 6月1半旬から6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(+)

調査地点: 筑後市 106頭(平年 300頭、前年 162頭)

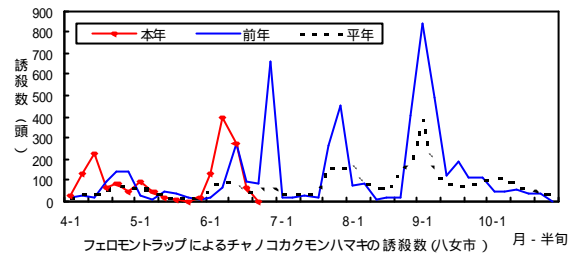
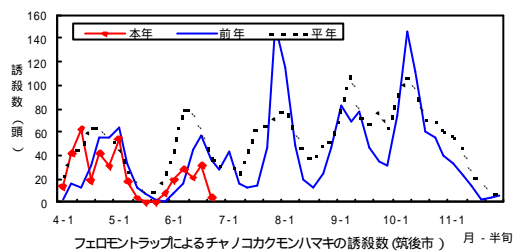
八女市 852頭(平年 322頭、前年 533頭)

イ 6月5半旬調査結果(±)

被害葉数 0.05葉(平年 0.04葉、前年 0葉)

発生ほ場率 9.1%(前年 0%)

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は、7月下旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

5 チャノホソガ

(1) 予報の内容

発生時期: 平年よりやや遅、前年並

発生量 : 平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬までのフェロモントラップの誘殺虫数は次のとおりである(+)

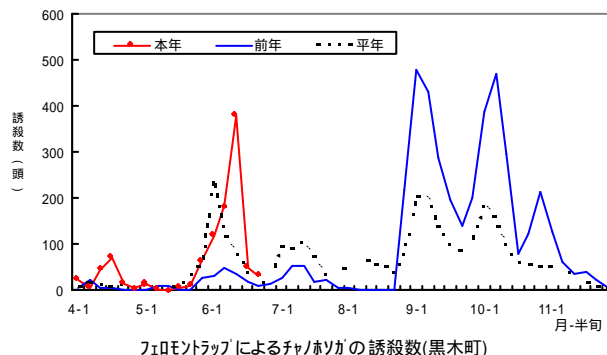
調査地点: 黒木町 1,023頭(平年 686頭、前年 237頭)

イ 6月5半旬調査結果(-)

被害葉数 0.03葉(平年 1.4葉、前年 1.1葉)

発生ほ場率 4.5%(前年 26.1%)

ウ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。



(3) 防除上の注意

ア 第2世代成虫の発蛾最盛期は、7月中旬頃と予想されるので、ほ場での成虫の発生に注意し、成虫が最も多いときから7日後を目安に防除を行う。

イ 巻葉後は防除効果が劣るため、巻葉が見られたら直ちに防除を行う。

6 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多、前年より多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(+)

たたき落とし虫数0.9頭(平年 0.5頭、前年 0.1頭)

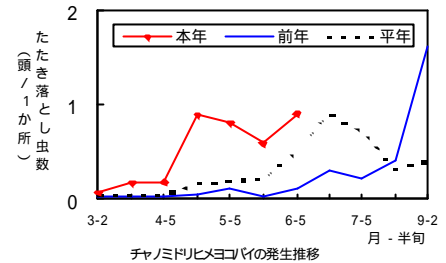
発生ほ場率 50.0%(前年 26.1%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で4頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



7 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

ア 6月5半旬調査結果(+)

たたき落とし虫数 9.9頭(平年 6.4頭、前年 11.6頭)

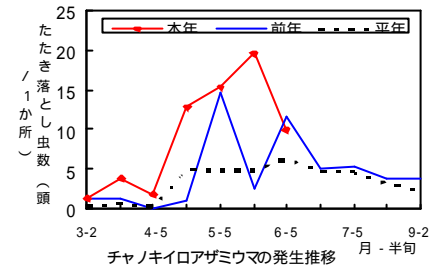
発生ほ場率 86.4%(前年 100%)

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

(3) 防除上の注意

ア たたき落とし(A4版白紙上)で10頭以上発生している場合は防除を行う。

イ 新芽の萌芽から開葉期を重点に防除する。



【野菜】

1 ネギのシロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや多

(2) 予報の根拠

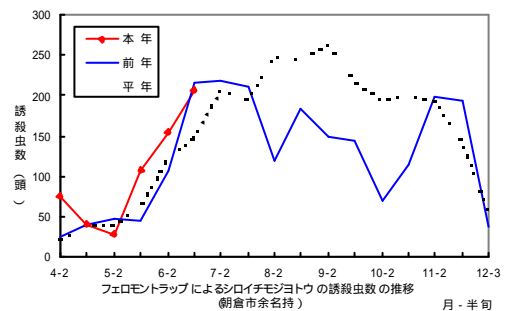
ア 朝倉市のフェロモントラップの誘殺虫数は、6月5半旬で207頭(平年 146.4頭、前年 215頭)(+)。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温及び降水量は平年並(±)。

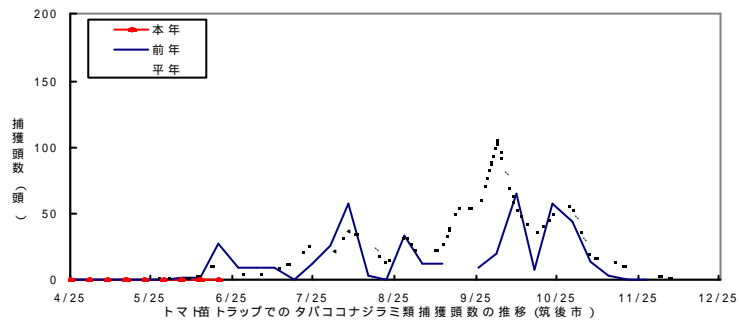
(3) 防除上注意すべき事項

ア 葉身に産みつけられた卵塊から孵化した幼虫はそのまま葉身内に食入し、内部から食害するため、卵塊や初期の被害葉は見つけ次第直ちに除去する。

イ 中齢以降の幼虫に対しては薬剤の効果が著しく低下するので、早期発見に努め、薬剤防除は卵期から孵化幼虫期に食入防止をねらって行う。



作物名 病虫害名	発生量 (現況) 平年比	発生量 (予想)		防除上注意すべき事項等
		平年比	前年比	
イチゴ うどんこ病 炭そ病 ハダニ類	やや少 並 並	並 並 並	並 並 やや少	伝染源となる古葉などは除去する。 ほ場により多発している。 発病株は速やかに除去し、防除を徹底する。
アスパラガス 斑点病 アザミウマ類 ハダニ類 アブラムシ類 鱗翅目	やや少 並 並 並 並	やや少 並 並 並 並	並 並 並 やや少 並	ほ場内の通風をよくする。 多発生後は防除が困難となるので、発生状況に注意し、初期防除を徹底する。
野菜共通 コナジラミ類	並	並	並	野外に設置したトマト苗トラップによる捕獲数の推移は下図のとおり。 今後の発生状況については、病虫害防除所のホームページを参照する。



農薬の適正使用、飛散防止の徹底を！

全ての農薬の残留基準が作物毎に設定され基準値を超えた食品（農産物）の販売が禁止されます。

農薬の使用に当たっては、ラベルを良く確認し農薬の使用基準を厳守するとともに周辺に飛散（ドリフト）しないよう、これまで以上に注意を払う必要があります。

1 農薬適正使用の徹底

適用作物、使用量、濃度、使用時期、使用回数などラベルを良く確認し使用基準を遵守する。

動力噴霧器、薬液タンクなどの散布器具を十分に洗浄する。

他作物が隣接している場合は、なるべく双方に登録がある農薬を使用する。

2 飛散防止対策の徹底

風、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 防除履歴の記帳

薬剤散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、散布月日、薬剤名、使用濃度、散布量等を正確に記帳する。

病害虫防除所では、病害虫の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jpjn.ne.jp/fukuoka>
電子メール kfok0301@sp.jpjn.ne.jp